

学位に付記する専攻分野の名称の在り方検討分科会（第2回）議事要旨

1. 日時 平成23年1月31日（月） 10:30～12:00
2. 場所 日本学術会議5階 5-B会議室
3. 出欠 （出席6名） 本田委員長、藤田副委員長、吉川幹事、小林委員、濱中委員、森委員
（欠席1名） 吉田委員
（参考人1名）

大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会委員長 北原 和夫

4. 議事

（1）開会

（2）各委員からの説明及び意見交換

- 学位名称の問題は一義的には大学の問題であり、その数が多くなったとしてもあまり実害はなく、いずれ淘汰されていくべきもの。名称変更がコミュニケーション・コストの低減に繋がっていないのが現状。
- 諸外国には“B.A”、“B.S”を基本とし、その変形がある。そして分野を“in ～”や“with ～”で表示する
- 名称の多様化は、外国においても見られ、その実例について知識を共有。
- 学位名称は修士、博士と連動していて、学士のみを議論するのは難しい、専門職大学院などが出来るなど複雑化している。
- 学位名称の問題は科学研究費補助金の細目表とは関係がない。
- 日本の学位制度はアメリカの影響を強く受けているが、ヨーロッパ等の制度も混在していて日本固有のものとなっている。
- 複合的・学際的で特異な領域設定をしている学部を否定的に捉え規制するような方向では考えない。
- 一先ず英文名称について考え、“B.A, B.S in”の後にどれくらいの許容範囲を与えるかなどの試案を作成する。